

第2学年B組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう（4時間）
教材名 表現（創作）
＜参考＞ 教科書2・3年上 My Melody 言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現（3）創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ（ア）「音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴」について表したいイメージと関わらせて理解すること

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること

〔共通事項〕

（1）ア 旋律

イ 音階

（1）題材観

現代では、様々なジャンルや世界の音楽を、インターネットを利用して聴くことができる。日本でつくられた曲は勿論のこと、洋楽やK-popなど、幅広い音楽を聴く機会が得られている。また、海外の曲を日本語にアレンジして歌われることもある。多様化される現代の楽曲の中で、今一度注目したいのが、言葉の抑揚と音楽との結びつきである。例えば、映画『サウンド・オブ・ミュージック』の劇中歌は吹替版であっても歌の場面では字幕表示になり原曲のまま歌われる。日本語訳にされたアレンジもあるが、オリジナルはその歌詞の抑揚に合わせて作られた曲であるため、歌詞とメロディが一体となって味わえる。日本の曲の中にも山田耕筰の「あかとんぼ」や「からたちの花」など、抑揚を意識した曲がある。現代の曲の中にも多く存在しており、近年のディズニー映画の日本語吹替版では、メロディと日本語がマッチするように歌詞がつけられているなど、言葉の抑揚と音楽には大きなつながりがある。

今回、創作で活用する「ヨナ抜き音階」は、音階の4番目と7番目の音を抜いた「ドレミソラ」からなる音階である。ヨナ抜き音階は、明治時代以降に確立されたものだが、以前から日本には五音音階が使われた楽曲が多く、西洋音階の「1 2 音階」は日本人にとって難しかったため、当時の学校の授業でも五音音階が推奨されてきた。そのため、日本特有の童謡や演歌はヨナ抜き音階が使われていることが多い。また、近年では、米津玄師の「パプリカ」や星野源の「恋」など、J-popにもヨナ抜き音階が使われていて、私たちの生活の身近な存在になっていることから、ヨナ抜き音階による創作活動は、生徒の関心・意欲を高めるために効果的ではないかと考えた。

1年次には、沖縄音階を使った旋律づくりを行った。その活動を通して、「沖縄らしさ」を感じるためにはどのような音の配置をすればいいのかを考えた。2年次は、そこからさらに発展させて、教科書2・3年上のMy melodyを参考に、俳句を歌詞にした言葉の抑揚に合わせた旋律づくりを行う。この活動を通して、自分の身のまわりの楽曲に関心をもたせ、作曲家の曲を作る上での表現の仕方について考えながら、自身のイメージを表現する力を付けさせたい。

（2）指導観

生徒たちは、1年次に「旋律に沖縄の風を吹かせよう」を題材に、沖縄音階（ドミファソシ）を自分の考えたリズムに当てはめる旋律づくりを経験した。ソングメーカーでは、オレンジ色（レの音）と紫色（シの音）を使わず、最後は赤色（ドの音）で終わるというシンプルなルールで行い、その活動

の中で、「跳躍進行よりも、順次進行を用いる方が沖縄らしさを感じられる」ということに気付くことができた。また、常時活動として、「四分音符、四分休符、八分音符と八分音符、八分休符と八分音符」を組み合わせた4小節分のリズムを作り、J-popの曲に合わせてリズム通りに手を叩いたり、仲間のつくったリズムを全員で打ったりする活動を行った。これらの活動を通して、創作活動を身近に感じることができているが、即興的に演奏したり様々に創作する経験が多く、完成後に自身の使った音やリズムを見比べたり、さらに工夫したりする経験が少ない。そこで、今回、言葉の抑揚を根拠に旋律をつくることで、音を選択する上で、音の高低やリズムに拘りをもって創作に取り組めると考えた。

今回の創作では、「ヨナ抜き音階」を用いる。近年のヒットしている曲の中にはヨナ抜き音階を使っている曲が多く、「ヨナ抜き音階」は世界的にも最も広い地域で使われているペンタトニック・スケールであるため、生徒にとっても耳なじみがあり、身近な曲の中にも共通した旋律の特徴があることを知ること、旋律づくりの意欲にもつながるのではないかと考える。また、歌詞となる俳句について、教科書では、松尾芭蕉の「古池や 蛙飛び込む 水の音」が使われているが、生徒がイメージを膨らませやすくなるよう、季節の異なる4つの俳句を提示して、選ばせる。その俳句を選択した理由について考えたり、その俳句についてイメージを膨らませたりすることで、根拠をもって旋律づくりができるのではないかと考えた。

本題材の活動では、生徒たちの音楽経験の差や苦手意識を軽減するために、1年次と同様にソングメーカーを使用する。ソングメーカーに選んだ音を入力していくと、それが色付きの線のように表され、言葉の抑揚（抑揚線）と選んだ音の高低のつながり（つくった旋律）を簡単に比べることができる。また、グループ活動において、自分がどのようなイメージをもち、どんな旋律をつくりたいのか、どんな音を使いたいのかを考え、比較したり、関連付けたりしながら、それぞれがつくった音楽を共有し、自分がつくりたいイメージの旋律に仕上げさせていきたい。

3 題材の目標

- 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、言葉や音のつながり方の特徴を生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫する。（思考力・判断力・表現力等）
- 言葉と音のつながりやヨナ抜き音階を基にイメージと関わらせて旋律をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で旋律を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	言葉と音のつながりや「ヨナ抜き音階」を基にイメージと関わらせて旋律をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5 研究の視点

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

生徒たちは、音楽づくりを小学校から継続的に学習している。低学年の「ばんそうあそび」、中学年の3音（ラドレ）・5音（ミソラドレ）から音を選んで旋律をつくる活動、そして5年生では日本の音階の音を使って、6年生では和音にふくまれる音を使って旋律をつくることを経験している。系統的に楽しんで音楽をつくることを経験している生徒たちに、小学校での学びを生かした旋律づくりに取り組みさせていきたい。中学校では、創作の学習に活用できる知識や技能を定着させることを目指し、既習の「四分音符、四分休符、八分音符と八分音符、八分休符と八分音符」を組み合わせたリズムゲーム等の常時活動を行った。また、1年次に沖縄音階を使い、「沖縄らしい」旋律をつくるにはどうすればよいかを考え、旋律の創作を行った。本題材では、言葉の抑揚を生かした旋律づくりをしていくことで、どのような思いをもって、なぜこの音を選んだのか、より音の選択に根拠をもった活動ができると考えている。

○音楽を形づくっている要素の設定

本題材では、音楽を形づくっている要素の「旋律」に焦点を当てる。一定のルールの中で様々な音楽表現を工夫することは、小学校の音楽づくり、中学校の創作に共通した学習活動である。本題材では、生徒が俳句を選び、つくりたい旋律のイメージをもつ。俳句の五七五の言葉を、指定された4小節のリズムパターンに当てはめる。言葉の抑揚を線で表し、その抑揚線に合うように音を選ぶ。俳句のイメージを膨らませながら、どのように音と音をつなげたらよいか（上行形・下行形・順次進行・跳躍進行）考え、試していく。言葉の抑揚や、音楽を形づくっている要素を根拠に、それぞれがイメージした旋律に近づくように試行錯誤を繰り返させたい。

○グループ活動の場面の設定

表現の工夫を考える創作活動において、作品を仕上げていく過程でグループ活動を行う。自分の表したいイメージを明確にしたり、新しい発想や知識を得たりするために、他者との関わりをもち、互いの意見や演奏を聴き合ったり助言したりする活動を行っていききたい。自分がどのようなイメージをもち、どんな音を使いたいのかを、仲間との協働において比較したり、関連づけたりしながらそのよさを共有することで、より自分のイメージに近い旋律に仕上げさせていきたい。

【視点3】評価の在り方

本時は、音のつながり方と言葉の抑揚などの特徴を生かし、表現したいイメージに合う旋律をつくることをねらいとしている。

生徒がイメージを膨らませやすくなるよう提示した四つの俳句から、なぜこの俳句を選んだのか、理由を明確にさせ、ワークシートに記入していく。そして、俳句の言葉の抑揚を捉え、抑揚線として記入させる。本授業での創作活動には、タブレットPCのソングメーカーを用いる。抑揚線の上がり下がり、ソングメーカーに入力した旋律を見比べ、どのような思いや意図をもって音を選択したのか見取りたい。

また、グループ活動の場面で、自分がどのようなイメージをもち、どんな旋律をつくりたいのか、どんな音を使いたいのか、自分の考えや思いを、言葉や音を通して他者に伝えたり、そのよさを共有したりしながら、思考・判断している生徒の姿を見取りたい。

【コロナ対応として】

- ・3人程度のグループ活動とし、活動時は対面にならないようにする。
- ・換気を十分に行う。
- ・個人のギガタブを使用する。

6 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）（本時3/4）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 (音符、休符、記号や用語) 〕	○教師の働きかけ ・目指す生徒の姿	評価規準 (評価方法)		
				知	思	態
◎ヨナ抜き音階を理解し、言葉の特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解する。				知 (記述・発言)		
第一次	第1時	○音符、休符について復習する。 ・4小節分のリズムパターンをつくり、音楽に合わせて打つ。 ☆〔リズム〕 ○既習曲「夏の思い出」を聴く。 ・「はるかなおぜ」とおいそら」の部分の抑揚と旋律が一致していることを知る。 ○米津玄師の「パプリカ」を聴く。 ・サビの部分の抑揚を聴き、歌詞の言葉の抑揚との関わりを知る。 ・抑揚との関わりが少ない「千本桜」と聴き比べ、旋律と抑揚が一致していると歌いやすいことを知る。 ☆〔旋律〕 ○言葉の抑揚と音高との関わりを理解する。 ・「あめ」「ゆき」「くもり」「かみなり」の言葉の抑揚線を引く。 ・言葉の抑揚やリズムをワークシートに記入する。 ○ヨナ抜き音階の特徴を知る。 ・西洋の音階の4つ目(ファ)と7つ目(シ)の音を抜いた「ドレミソラ」で構成されている、世界的にも有名な音階であることを知る。 ・「千本桜」や「打ち上げ花火」など、身近な曲にも使われている音階だと知る。 ☆〔音階〕	○リズムをスムーズに決定することができるようにするために、ギガタブの発表ノートの資料置き場にある【四分音符】【八分音符+八分音符】【八分休符+八分音符】【四分休符】の4つのリズムのカードを組み合わせて考えさせる。 ○つくったリズムパターンを正しく打つことができるようにするために、小節ごとに区切ってリズムを確認し、音符や休符の違いを意識させる。 ・曲の拍子に合わせてリズムパターンを正確に打っている。 ○視覚的に流れを捉えられるようにするために、大型モニターに「はるかなおぜ」の部分の楽譜と抑揚線を映し出す。 ○「パプリカ」の抑揚線と実際の旋律の音高の線をそれぞれ大型モニターに映すことで、上がり下がりが共通する部分を確認させ、言葉の抑揚が旋律に影響を与えていることを理解させる。 ・曲を聴き、抑揚と音高が一致していることに気づく。 ○「雨」と「飴」のイントネーションの違いに注目させ、音高に合わせて手を上下に動かすことで、抑揚を確認させ、言葉に応じた抑揚線の書き方を理解させる。 ・言葉の抑揚にあった線を書いている。 ○実際に「ファ」と「シ」の音を抜いたヨナ抜き音階を、ピアノを弾いて聴かせたり、その音のみを使って身近な曲を演奏して聴かせたりすることで、ヨナ抜き音階の特徴について理解させる。 ・ヨナ抜き音階の特徴を理解している。			

	第2時	○4つの俳句から創作する曲を選ぶ。 【春の句】菜の花や月は東に日は西に 【夏の句】閑さや岩に染入る蟬の声 【秋の句】秋雨や身を縮めたる傘の下 【冬の句】うまそうな雪がふうわりふわりかな - 俳句から感じ取ったイメージを自分の言葉でまとめ、ワークシートに記入する。 ○言葉の抑揚を捉え、音の合わせ方を考える練習をする。 - 言葉の抑揚を捉え、ワークシートに抑揚線として記入する。 - 抑揚線をもとに音程の上がり下がりを決めていく。 - ソングメーカーを使い、音を入れる。 - グループで再生しながら比較する。 ○リズムの確認をする。 - 実際に手を打つ。 - リズムに合わせて俳句を読む。 ☆〔リズム、旋律〕 ○俳句をワークシートに入れる。 ○俳句の抑揚線を入れる	○その俳句がどのような意味なのかをワークシートに載せることで、その句のイメージを膨らませ、自分のつくりたい旋律に根拠をもたせる。 - 俳句を選んだ根拠とイメージを書いている。 ○前時で抑揚線をつけた「あめ」「くもり」「かみなり」をソングメーカーの「ドレミソラ」の音を使って表現することで、抑揚線と音程のかかわりを確認させ、創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもたせる。 ○課題用に設定したソングメーカーをクラスルームで配付する。 - 言葉の抑揚に合った線を引いている。 ○旋律づくりで扱うリズムをギガタブ上で共有し、手拍子を打ったり俳句を読んだりする場を設定することで、俳句のリズムの流れを理解させる。 - 正確なリズムで俳句を読んでいる。 ○個別に声をかけ、声に出して確認したり、抑揚に合わせて手を動かしたりしながら抑揚線を書くことができるようにする。 - リズムに合った場所に言葉を書いている。 - 言葉に沿った抑揚線を書いている。			
◎音のつながり方と言葉の抑揚などの特徴を生かし、ヨナ抜き音階を用いて、表現したいイメージに合う旋律をつくる。						
第二次	第3時 (本時)	○同じ俳句の人と抑揚線の確認をする。 ○リズムの確認をする。 ☆〔リズム〕 ○言葉の抑揚を捉える。 3人程度のグループで行う。 - ソングメーカーを使い、1フレーズごとに試していく。 - 音を入力して、適宜再生して、確かめながら進めていく。 - ソングメーカーのリズムの△マークに音を入れ、○マークには音を入れないようにする。 ☆〔旋律、音階〕	○声に出して違いを確認したり、抑揚に合わせて手を動かしたりすることで、音の動きやそのとらえ方の違いを比較できるようにする。 - 抑揚線を確認し、つくりたい旋律の見通しをもつ。 ○ソングメーカーを再生させることで、実際に音で確かめながら自分のイメージとの結びつきを確認させ、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもたせる。 - 言葉の抑揚に沿った旋律をつくっている。		(記述・発言・観察)	

		○つくった旋律を発表する。 ・ 2～3人の生徒が発表し、全員で鑑賞する。	○発表する生徒の旋律を全員で声に出して歌うことで、俳句と旋律を比べさせる。 ・ 仲間の作品を聴き、自分の作品を振り返っている。			
第4時	○前時の復習をする。 ・ 友達がつくった旋律を知り、分析したり、自分の作品に生かしたりする。 ☆〔旋律、音階〕 ○つくった旋律を発表し、お互いの作品のよさを共有する。 ・ 6人グループ(2グループ合同)に分かれ、俳句から感じ取ったイメージ、表したいイメージを表現するために工夫した点、つくった旋律を互いに発表し、気づいたことをアドバイスし合う。 ・ ジャムボードを使い、お互いの気づいた点を共有する。 ○創作した曲を記譜する。	○同じ俳句を選んだ生徒ごとにグループ分けをすることで、人によって違った旋律になることを確認させ、自分自身がその音を選んだ根拠について考えさせる。 ・ 同じ俳句をつくった仲間と旋律を比較し、違いを感じ取っている。 ○プリントに書いた抑揚線とソングメーカーの線の流れが一致しているかについて確認させ、根拠をもたせる。 ○ジャムボードに相手の感想を書くことで、相手の旋律づくりの根拠に注目させる。 ・ お互いの作品のよさについて言葉で表現している。 ○【①拍子・小節線、②リズムの書き方、③音高の置き方】が書かれた資料を見ながら記譜することで、段階的に記譜の方法を確認させ、自分のつくった旋律を五線譜に書かせる。 ・ 五線譜に自分のつくった旋律を記譜している。	技 ↓ (記述・発言・観察)		↓ (記述・発言・観察)	

7 本時の指導

(1) 本時の目標 (3/4)

表現したいイメージに合う旋律をつくるために、言葉の抑揚や音のつながり方の特徴を生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫する。

(2) 本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童(生徒)の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 *コロナ対応(場の設定や支援、配慮事項等)
1 抑揚線の確認をする。 ・同じ俳句を選んだメンバーで集まり、抑揚の違いを確認する。 2 リズムの確認をする。 ☆〔リズム〕 3 本時の目標を確認する。	○①ソングメーカー、②スライド「創作する曲の歌詞を4つの俳句から選ぼう」、③スライド「曲のリズムに俳句を当てはめてみよう」のタブを準備させる。 ○声に出して違いを確認したり、抑揚に合わせて手を動かしたりすることで、音の動きやそのとらえ方の違いを比較できるようにする。 ・自分のつくった抑揚を確認し、抑揚線を決めている。 ○リズムを手で叩き、自分が選んだ俳句を声に出しながら確認する。
俳句のイメージを旋律に表すにはどうすればいいだろう。	
4 ソングメーカーを使い、言葉の抑揚に合った音を当てはめる。 ・4人程度のグループで行う。 ・音を入力して、適宜再生して、確かめながら進めていく。 ・四分音符は2つ分塗りつぶし、八分音符は1つ分塗りつぶす。 ・休符は空白にする。 ☆〔旋律、音階〕 5 つくった旋律を発表する。 ・ソングメーカーを保存し、クラスルームのコメント欄に提出する。 ・2～3人の生徒が発表し、全員で鑑賞する。 ・授業の感想をスライドに記入する。	○ソングメーカーを再生させることで、実際に音で確かめながら自分のイメージとの結びつきを確認させ、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもたせる。 ○リズムのかたちをソングメーカーの打楽器で表し、見本となるようにする。 ○通して確認するだけではなく、1フレーズずつ確認するよう指導することで、抑揚線と旋律の動きに細かく注目させる。 ・俳句の抑揚をもとに、イメージに合った旋律にできるよう工夫している。 *グループ活動の際に、距離間隔をとるようにする。 ◇リズム・旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 (思考・判断・表現) 〈ワークシート〉 ○発表する生徒の旋律を全員で声に出して歌うことで、俳句の言葉の抑揚を比べさせる。 ・仲間の作品を聴き、自分の作品を振り返っている。